

## 第7回区役所・サンプラザ地区再整備推進区民会議 区長説明内容

現在の中野区役所、中野サンプラザを中心とした中野駅新北口駅前エリアの再整備につきましては、9月18日に行った定例記者会見におきまして、再整備を推進することを表明いたしました。またあわせて中野区報10月5日号には同様の内容を記事にして配布したところです。

再スタートしたこの区民会議を2回開催しただけでこの決断をしてよいのか、十分に区民の声を聞いていないのではないかといったご指摘もありましたが、私としてはこのほかにタウンミーティングや私的に開催したサンプラザを考える会などでいただいたご意見のほか、中野駅周辺各地区で進められているまちづくりの関係者の声を聞き、このまま立ち止まっていることの影響を考慮し、できるだけ早期に決断すべきと考えていました。

9月11日からは中野区議会の第3回定例会が開会し、早速この件についての質問が各会派からありましたので、再整備に向けた検討を進めるものとし、新たなランドマークをどのように作っていくのか、引き続き区民会議などを通じて議論したい旨の考えを示しました。

このように政策的な決断が求められた事案でもあり、区民会議の委員の皆さんにとっては、寝耳に水と取られても仕方ないと思っておりますが、将来の中野のまちを見据えた決断として、受け止めていただきたいと思います。

まずは、記者会見の内容についてご説明し、その後に質疑を受けたいと思います。

### 1. 区長就任後の検討経過について

まず、区長就任後の検討経過についてご説明します。

区長就任後、「区役所・サンプラザ地区再整備推進区民会議」や「区民と区長のタウンミーティング」などの区民との対話の場を設け、意見交換を行ってまいりました。また、メールなどによって「区民の声」も寄せられています。

それぞれの場において、中野サンプラザに対する想いや1万人アリーナ計画のあり方、中野駅西口改札の早期開設、まちのバリアフリー化など、様々なご意見をいただきましたし、タウンミーティングに参加された皆さんが付箋に書かれたご意見も読ませていただきました。

区民の声からとらえた「中野サンプラザは思い出がいっぱい。」、「区役所もサンプラザも老朽化が心配。」、「中野駅にエレベーターがなくて不便。」、「中野は子連れでは来にくいまちだと思う。」といったまちの状況をとらえながら、中野駅新北口駅前エリア再整備に関する課題整理を行い、主な課題として3つに集約しました。

1つ目に、再整備は現在進行中の中野駅周辺の各地区整備と密接に関連しており、それぞれの進捗に影響すること、特に中野駅西口改札整備を進める上での前提条件となっていること。

2つ目に、中野サンプラザは開業から45年経過し、施設更新の時期を迎えており、存続させた場合には負担が大きいこと。長寿命化工事を行った場合、簡易な方法ではありませんが、約32億円かかるとの試算結果、これは前回の区民会議の資料で提示したものです。

3つ目に、将来にわたってだれもが安全・安心に過ごせるユニバーサルデザインのまちづくりが求められていること。

こうした区民の皆さんからのご意見や課題を総合的に判断した結果、中野駅新北口駅前エリアは、中野区役所の移転や新北口駅前広場整備などとの一体的な計画により再整備を推進するものとし、あわせて中野駅西側南北通路・橋上駅舎の早期開設に向けた取り組みを進めていくこととしました。

## 2. 再整備の推進について

では、中野駅新北口駅前エリアにおける再整備の考え方をご説明します。

まず、そもそも、再整備とっているのは、赤線で囲っている「中野駅新北口駅前エリア」で、ここで駅前広場や新たな建物を一体的に整備するものです。

事業手法については、土地区画整理事業による街区再編のほか、新たに生み出される床の処分などによって事業費を賄う市街地再開発事業を想定しており、民間の参画を得ていきたいと考えています。

中野駅新北口駅前エリアは、将来にわたって人々の交流とにぎわいに満ちた、区民の誇りとなるシンボル空間の形成を目指していきたいと考えています。中野サンプラザのDNAを継承する新たな文化発信拠点を整備するため、民間活力を活用した再整備プロジェクトを推進していきます。

再整備にあたっては、

- 中野サンプラザのホールにおいて歴史に残る数々のコンサートが行われてきたことや、多くの人々の交流の場として利用されてきたことなど、歴史や実績の「キオク（記憶）」
- サンプラザは複合施設の先駆けと言われたようですが、様々な機能の複合化やぱっとみて印象に残る「カタチ（形）」
- 中野はわからなくても「中野サンプラザ」ならだれもが知っている、ブランドとなっている「ナマエ（名前）」

この3つのDNAを新しいサンプラザに引き継いでいくものとし、区民会議などを通じて、新たな中野のランドマークをどのように作っていくか、議論していきたいと考えています。

前回の区民会議で、東京工芸大学の笠尾先生から「再開発するにしても、思い出とつながれる手掛かりを残しておくことが重要」といったアートを活用したご提案もありました。また、先日参加したアールブリュットのイベントで、フランスの元首相のお話を伺いましたが、文化政策という観点からも、アートをどう取り込むか、あるいはどう発信するかということも重要だと考えています。

形についてはそっくりそのままは難しいですが、三角形をモチーフにするなどの工夫はあるかと思います。もちろん非効率な建物では事業採算性にも影響すると思いますし、いずれにしても様々なアイデアを集めていきたいと考えています。

次にアリーナ計画ですが、これまで中野サンプラザによってまちの文化が醸成されてきたように、今後も中野のまちを成熟させていくためには、中野サンプラザの後継施設としてのホールやコンベンション機能は必要であると考えています。

今回の参考資料となっている再整備への意見や提案、大変多くいただきましたが、現状と同程度のホールを望む声はかなり多く、具体的なお提案もありました。1万人規模を望む意見もありましたがそれは少数であり、やはり現状と同規模をベースに検討していくのがよいのではと感じています。

集客交流施設では、アリーナ計画ばかりに目が向きやすいですが、今のサンプラザの使われ方を見ますと、ホールでのコンサートは特定の観客であり、普段、一般の区民に使われているのはバンケットや会議室ではないかと思います。また、いまのサンプラザ前の広場のように、オープンな広場をできるだけ確保したいと思っています。まさに「交流とにぎわいに満ちた」空間とするためには、どのような集客交流施設があるとよいのか、議論していきたいと思っています。

### 3. 中野駅地区整備について

次に、中野駅地区整備の推進についてご説明します。

中野駅の利用者は中野四季の都市（まち）のまちびらき以降増加し、今後も中野駅周辺まちづくりの進展に伴い、増加傾向にあると予測しています。

今後の状況を見据え、機能的で利便性の高い交通空間を実現するためには、中野駅西側南北通路・橋上駅舎整備や駅前広場の整備を着実に進めていかなければなりません。現在、この南北通路・駅舎・駅ビルの実施設設計を進めており、西口改札の早期開設に向けて、J R 東日本と連携を図りながら取り組んでいきます。

また、エレベータなどによって駅内外の縦方向の動線を確保し、だれもが安全で円滑に移動できる歩行者ネットワークの形成を目指していきます。

なお、10月から準備工事である支障移転工事に着手しています。

今後の予定については、次のとおりです。

- 区民会議については、
  - 本日（10月29日）、第7回を開催し、以降も開催予定です。
  - アリーナのあり方などについて議論していきます。
- 公共基盤に係る都市計画手続については、
  - 駅前広場や道路などの都市計画原案公表したところであり、手続を進めていきます。
- 中野駅支障移転工事等については、

- 10月から準備工事に着手し、工事を進めています。
- 中野駅新北口駅前エリア再整備事業計画については、
- 2019年3月を目途に素案を公表できるよう、検討を進めます。

私からの説明は以上です。